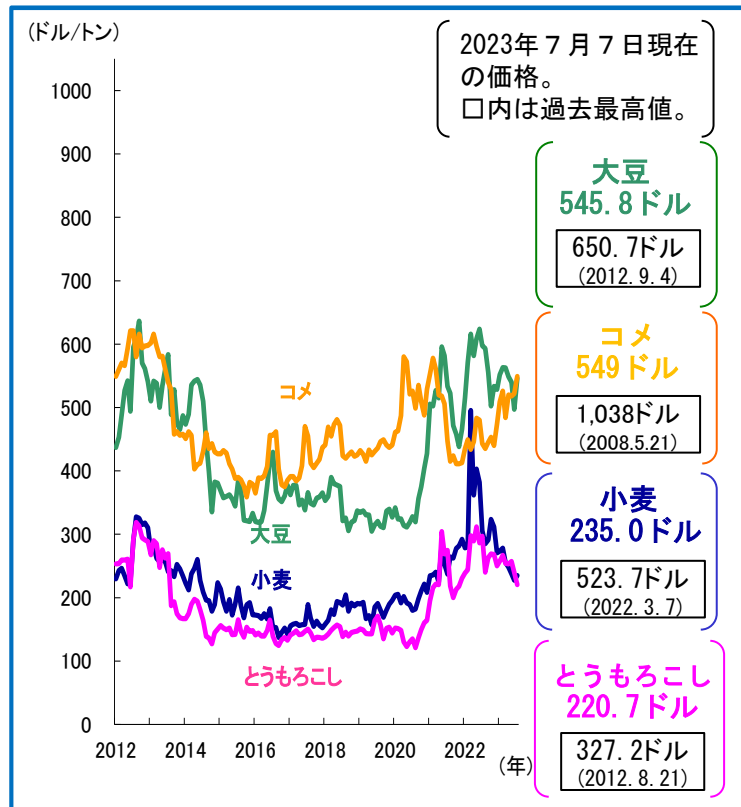
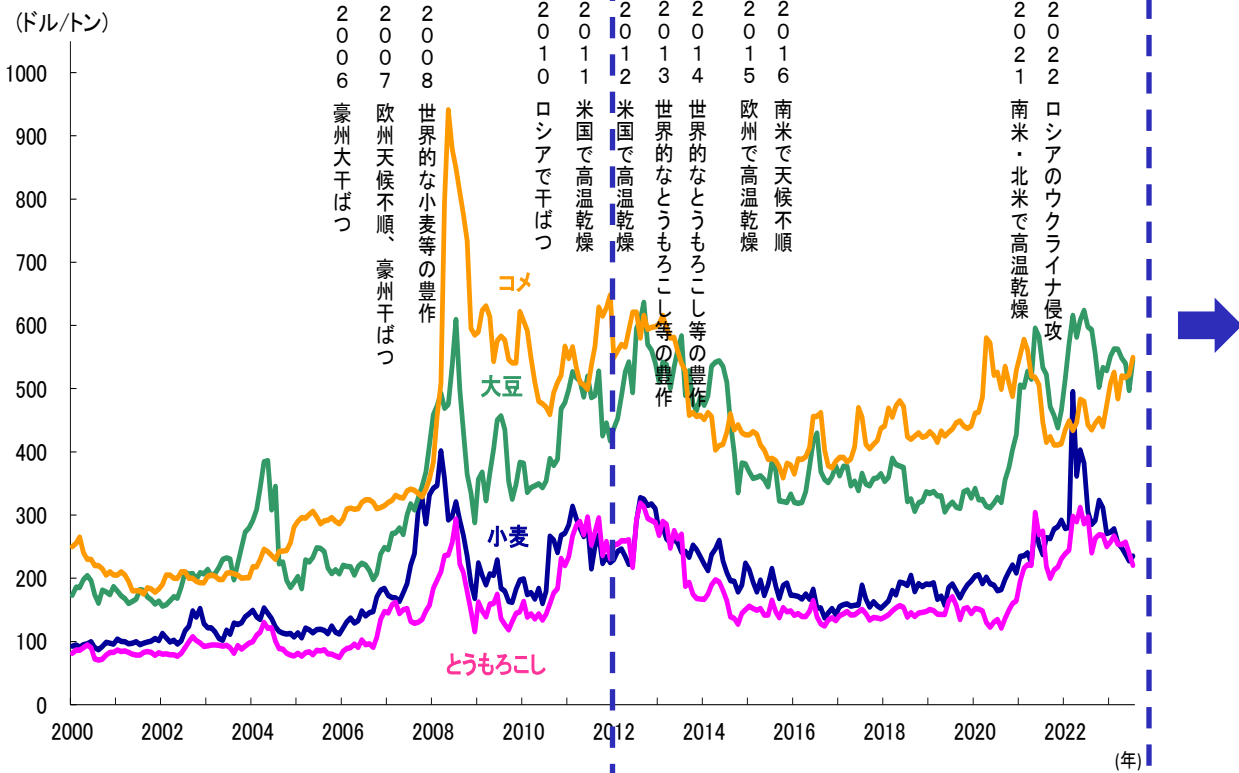


資料 1 穀物等の国際価格の動向（ドル/トン）

- とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な豊作等から穀物等価格は低下。2020年後半から南米の乾燥、中国の輸入需要の増加、2021年の北米の北部の高温乾燥等により上昇。2022年、ロシアのウクライナ侵攻により、小麦は史上最高値を更新も、4者協議による黒海からの輸出再開などもあり侵攻前の水準まで低下。一方で、とうもろこし、大豆は、アルゼンチンの干ばつから依然として高水準。コメは、2013年以降低下も、2020年ベトナムの輸出枠設定等で一時的に上昇。2022年9月以降、インドの輸出規制やインドネシアの需要増等から上昇。
- 穀物等価格は、新興国の畜産物消費の増加を背景とした堅調な需要やエネルギー向け需要に加え、ウクライナ情勢により、2008年以前を上回る水準で推移。

□ 穀物等の国際価格の動向



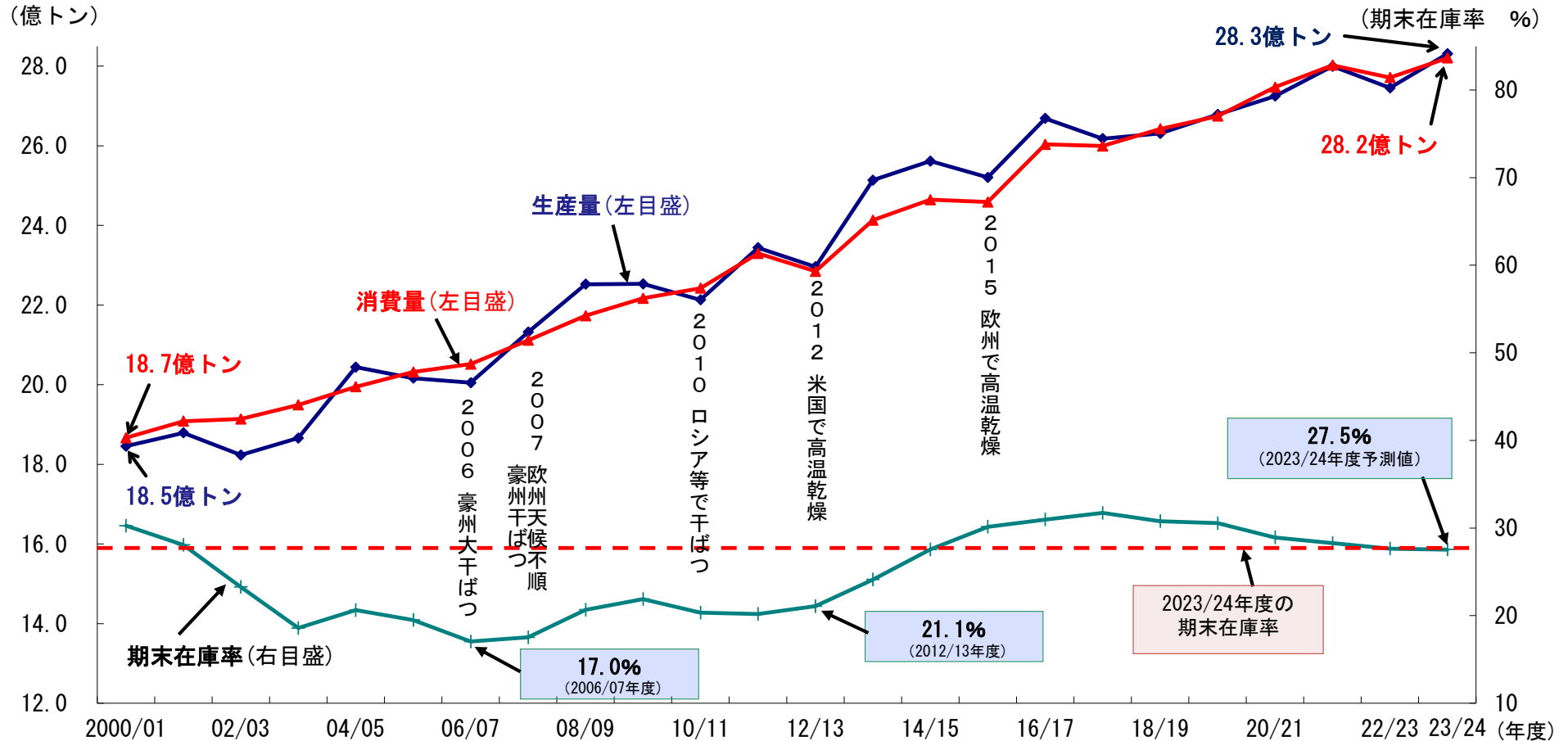
注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格（セツルメント）である（但し、4月は7日が休場であったため、6日の価格）。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。

注2：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

資料2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2023/24年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2023/24年度の期末在庫率は、生産量が消費量を上回ったものの消費量が増加したことから前年度より減少し、27.5%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.1%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移

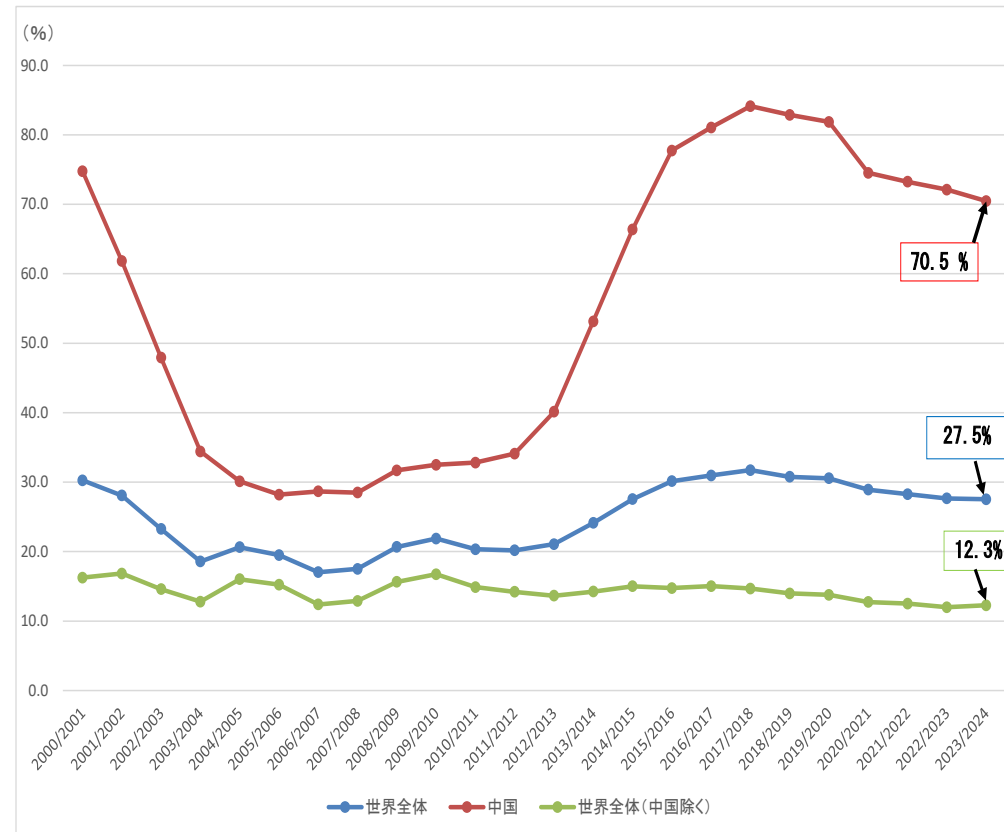


資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(July 2023)、「IPS&D」

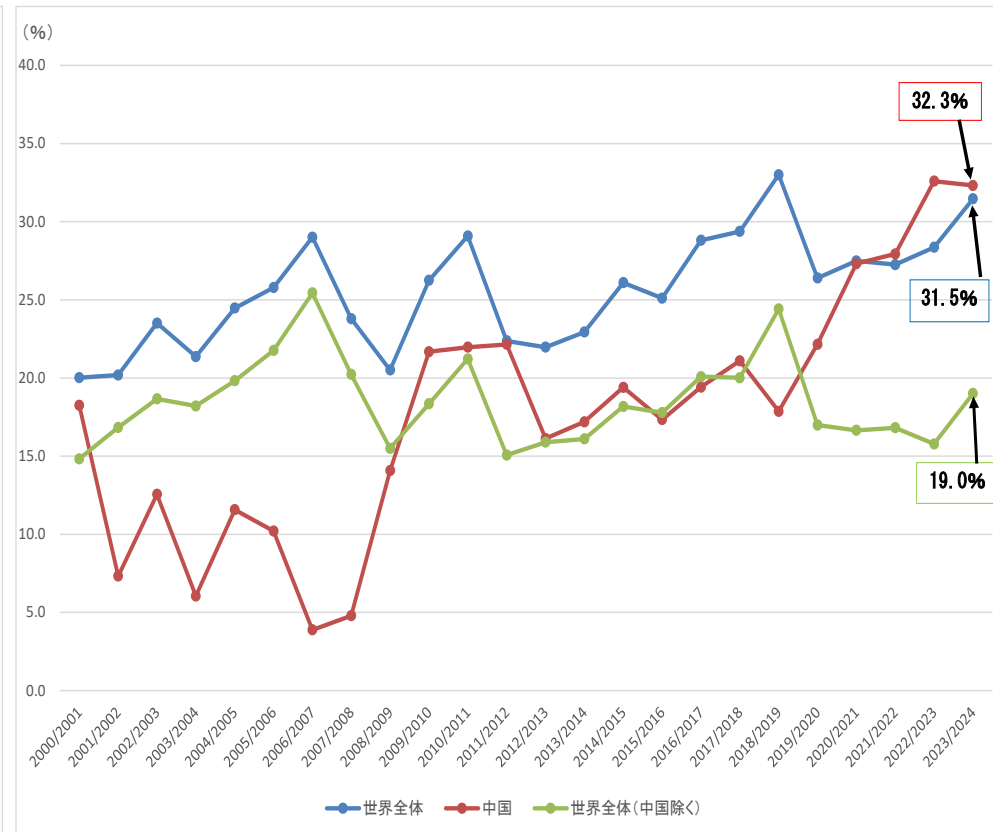
(注) なお、「IPS&D」については、最新の公表データを使用している。

資料 3-1 穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、大豆）

○ 穀物全体の期末在庫率の推移



○ 大豆の期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(July 12, 2023)

注: 1)穀物はとうもろこし、小麦、コメ等(大豆除く)。

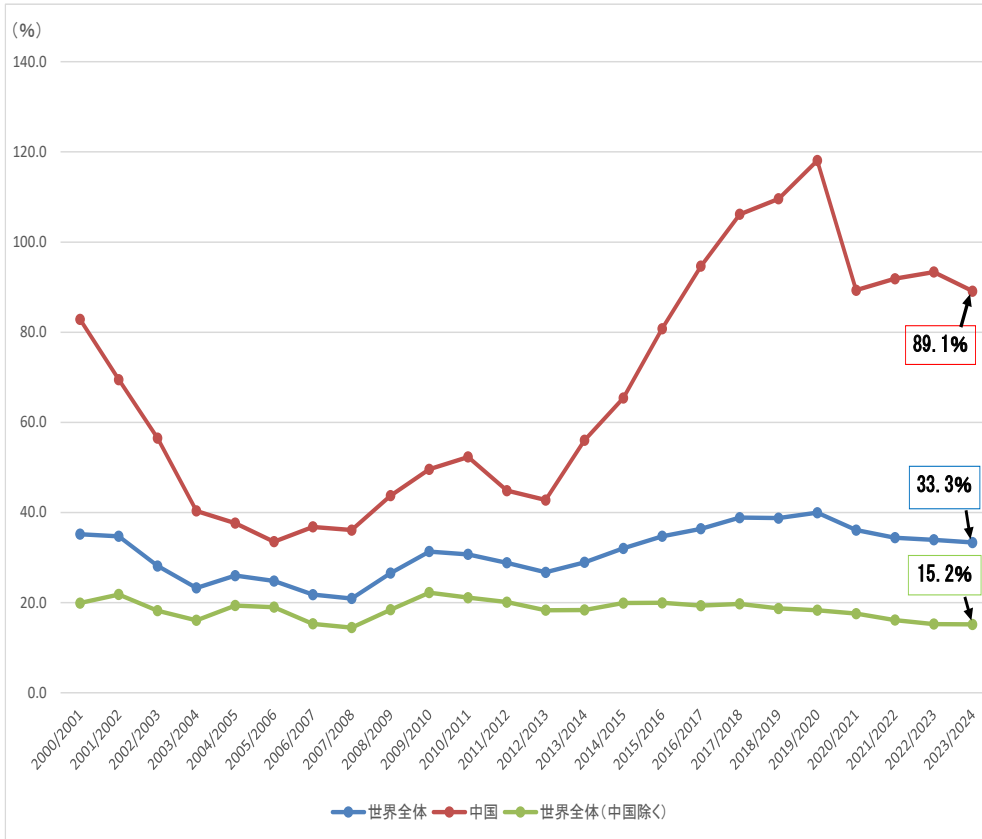
2)世界の期末在庫率(%)=期末在庫量/(消費量+輸出量-輸入量)×100 ※ただし大豆については、世界の期末在庫率(%)=期末在庫量/消費量×100

3)中国の期末在庫率(%)=中国の期末在庫量/(中国の消費量+中国の輸出量)×100

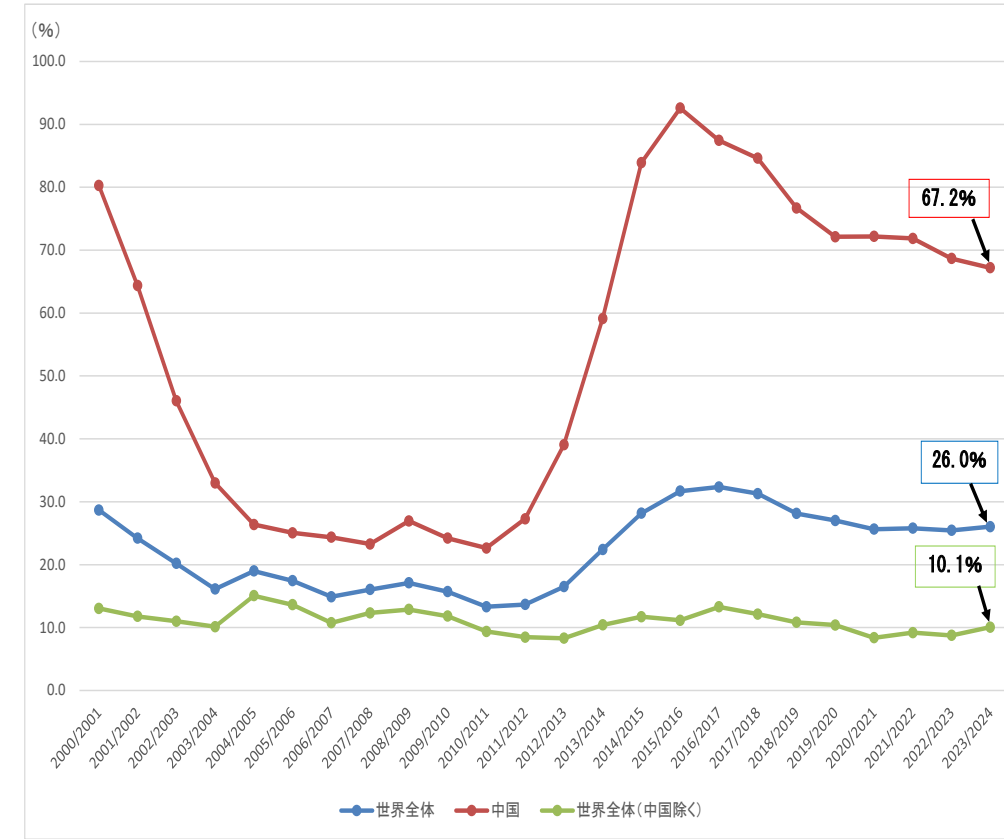
4)中国除く期末在庫率(%)=中国除く期末在庫量/(中国除く消費量+中国除く輸出量)×100

資料 3-2 穀物等の期末在庫率の推移（小麦、とうもろこし）

○ 小麦の期末在庫率の推移



○ とうもろこしの期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(July 12, 2023)

注: 1)小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

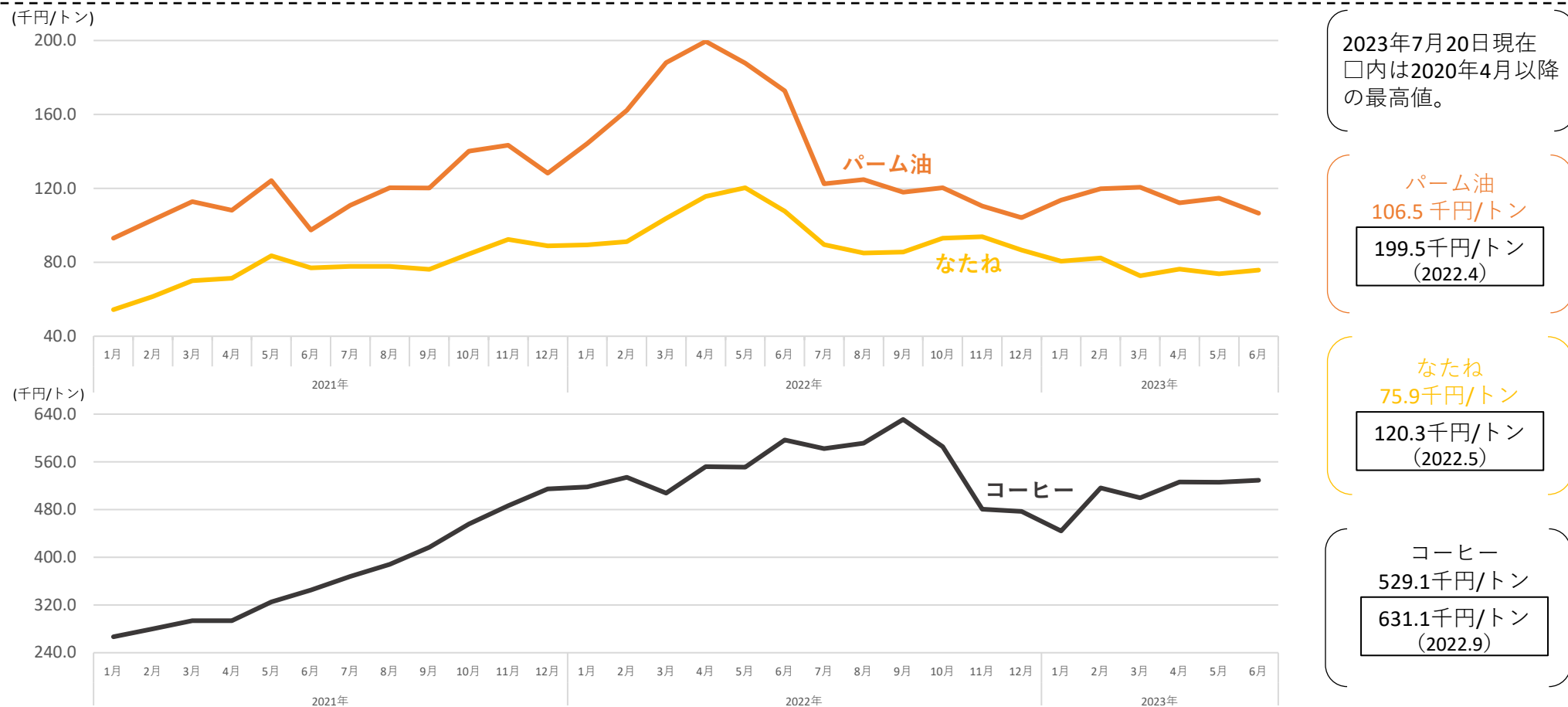
2)世界の期末在庫率(%)=期末在庫量/(消費量+輸出量-輸入量)×100

3)中国の期末在庫率(%)=中国の期末在庫量/(中国の消費量+中国の輸出量)×100

4)中国除く期末在庫率(%)=中国除く期末在庫量/(中国除く消費量+中国除く輸出量)×100

資料 4－1 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の動向

- なたね、パーム油について、需要の面では世界的な人口増加や中国等における所得水準の向上による食用油需要の拡大、エネルギー向け需要の増加などが市場価格上昇の要因であった。
- 供給面では、なたねについて、主産地であるカナダでは**2021年に熱波による減産があったが、2022年は回復基調から平年並みの収量に近づいた**。また、パーム油について、インドネシアの輸出禁止措置（**2022年5月23日解除**）があったが、マレーシアの生産量の増加によって供給不足の懸念が払拭された。いずれも前年の高値からは落ち着きが見られるものの、依然高止まりしている。
- コーヒーについて、世界最大の生産国であるブラジルの天候不順や世界的な物流の混乱等供給不足への懸念が強まったこと、需要面ではワクチン接種による経済活動の回復からコーヒー消費量が増加したことにより市場価格が上昇した。その後、消費地のインフレによる景況感の悪化やブラジルでの生産の回復によって市場価格は下降したが、高値が続いている。

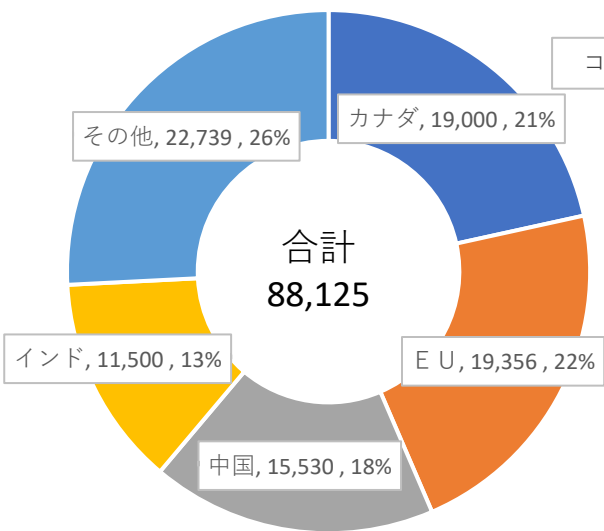


※ なたねの国際価格についてはカナダウィニペグ菜種市場の先物価格（期近物）を、パーム油の国際価格についてはマレーシアパーム油市場の先物価格（期近物）を、コーヒーの国際価格については国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均を用い、為替レートから円に換算して算出。

資料 4－2 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の生産量及び輸入先

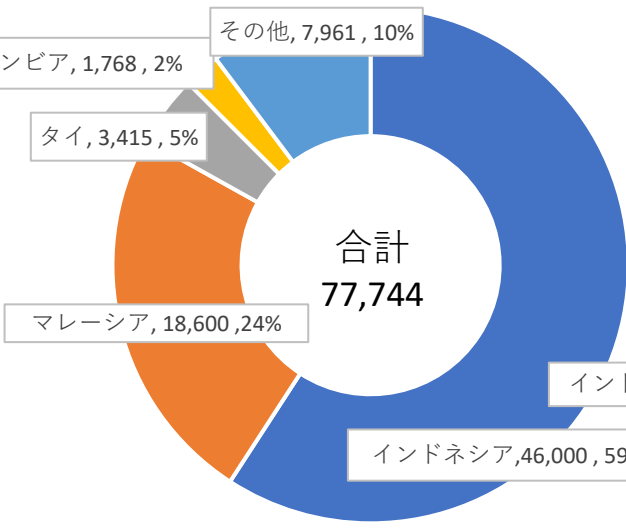
○主要生産国の生産状況

なたね生産量（2022/23）
（単位：千トン）



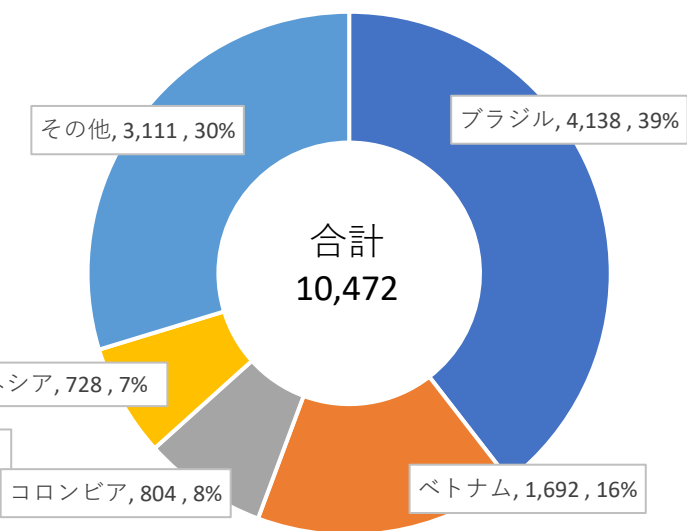
※米国農務省（Oilseeds: World Markets and Trade）

パーム油生産量（2022/23）
（単位：千トン）



※米国農務省（Oilseeds: World Markets and Trade）

コーヒー生産量（2020/21）
（単位：千トン）



※国際コーヒー機関（ICO）統計資料

○我が国の主な輸入先の状況（単位：千トン（2022年））

なたね	輸入量	割合
カナダ	1,248	59.4%
オーストラリア	853	40.6%
その他	0	0.0%
合計	2,101	100.0%

※財務省「貿易統計」（HSコード：1205）

パーム油	輸入量	割合
マレーシア	500	78.7%
インドネシア	135	21.3%
その他	0	0.0%
合計	635	100.0%

※財務省「貿易統計」（HSコード：1511）

コーヒー	輸入量	割合
ブラジル	112	28.7%
ベトナム	106	27.2%
コロンビア	47	12.1%
その他	125	32.1%
合計	390	100.0%

※財務省「貿易統計」（HSコード：0901.11～0901.12）

資料 4－3 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移①

①なたね 単位（千円/トン）

	2020年									2021年												2022年												2023年					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
なたね	34.9	35.2	37.1	37.6	39.2	41.2	42.5	45.0	49.5	54.4	61.5	70.0	71.4	83.6	77.0	77.8	77.9	76.2	84.5	92.4	88.8	89.4	91.2	103.7	115.7	120.3	107.7	89.6	85.0	85.5	93.1	93.8	86.6	80.6	82.4	72.8	76.4	73.8	75.9
前月比	99.7	100.9	105.4	101.4	104.2	105.1	103.0	106.1	110.0	109.9	113.0	113.9	101.9	117.1	92.2	101.1	100.0	97.8	111.0	109.3	96.2	100.6	102.0	113.8	111.5	104.0	89.5	83.3	94.8	100.6	108.9	100.8	92.3	93.1	102.2	88.3	105.0	96.7	102.7
前年同月比	92.1	98.4	101.8	102.0	109.7	112.6	112.3	119.6	128.9	136.4	162.7	200.1	204.6	237.4	207.6	206.9	198.5	184.9	199.2	205.2	179.3	164.3	148.3	148.1	162.0	143.9	139.8	115.1	109.1	112.3	110.1	101.5	97.5	90.2	90.4	70.1	66.0	61.4	70.5

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ
注1 カナダウィニペグなたね定期相場の各月の月央値（期近物）から算出

②パーム油 単位（千円/トン）

	2020年									2021年												2022年												2023年					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
パーム油	57.1	52.1	60.0	65.4	70.1	75.8	75.5	88.8	91.8	93.1	102.9	112.9	108.2	124.2	97.4	110.8	120.3	120.1	140.1	143.4	128.2	144.2	162.2	188.0	199.5	187.8	172.8	122.4	124.7	117.9	120.4	110.4	104.2	113.7	119.9	120.6	112.1	114.7	106.5
前月比	102.1	91.1	115.3	109.0	107.2	108.1	99.6	117.6	103.4	101.4	110.6	109.7	95.9	114.8	78.4	113.8	108.5	99.9	116.6	102.3	89.4	112.5	112.4	115.9	106.1	94.1	92.0	70.9	101.9	94.5	102.1	91.7	94.4	109.1	105.4	100.7	93.0	102.3	92.9
前年同月比	100.0	98.9	115.0	129.8	129.3	131.9	135.9	134.6	121.7	117.0	143.8	201.8	189.4	238.6	162.3	169.4	171.5	158.4	185.5	161.5	139.7	155.0	157.5	166.6	184.4	151.2	177.3	110.5	103.7	98.1	85.9	77.0	81.3	78.8	73.9	64.2	56.2	61.1	61.7

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ
注1 マレーシアパーム油定期相場の各月の月央値（期近物）から算出

資料 4－4 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移②

③ コーヒー

単位（千円/トン）

	2020年									2021年												2022年												2023年					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
コー ヒー	257.1	247.9	235.5	241.8	267.7	270.0	244.0	251.9	260.9	266.8	280.2	293.5	293.7	325.2	345.1	367.9	388.1	416.7	455.9	486.3	514.7	517.9	534.1	507.5	552.1	551.2	596.8	582.3	591.6	631.1	585.4	480.6	477.0	444.4	516.3	499.6	526.2	526.1	529.1
前月比	99.5	96.4	95.0	102.7	110.7	100.9	90.4	103.3	103.6	102.3	105.0	104.7	100.1	110.7	106.1	106.6	105.5	107.4	109.4	106.7	105.8	100.6	103.1	95.0	108.8	99.8	108.3	97.6	101.6	106.7	92.8	82.1	99.2	93.2	116.2	96.8	105.3	100.0	100.6
前年同 月比	111.0	111.4	99.1	98.0	119.0	116.0	105.3	97.4	92.9	104.6	115.4	113.6	114.2	131.2	146.6	152.2	145.0	154.3	186.9	193.0	197.3	194.1	190.6	172.9	188.0	169.5	172.9	158.3	152.4	151.4	128.4	98.8	92.7	85.8	96.7	98.5	95.3	95.4	88.7

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ
注1 国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均から算出
2 ICO複合指標価格は、米国、ドイツ、フランスの3大市場の現物の成約価格を収集しICOの定める方法で4品種ごとの加重平均値を算出したもの。

資料5 食品小売価格の動向

○ 令和5年6月の国内の加工食品の消費者物価指数は107.7～162.1（前年同月比で6.5%～29.6%）の範囲内。

消費者物価指数（総務省） （令和5年1月～令和5年6月）

	H30	H31 (R元)	R2	R3	R4	R5						
品目	平均	平均	平均	平均	平均	1月	2月	3月	4月	5月	6月	上昇率 (前年 同月比)
食パン	100.2	101.1	100.0	99.2	110.3	115.0	115.0	114.3	114.8	115.3	115.0	6.5%
即席めん	95.3	98.5	100.0	100.1	107.6	113.1	114.6	113.1	113.9	111.4	124.3	13.0%
豆腐	98.8	99.1	100.0	101.3	105.3	110.3	110.4	112.0	114.5	114.6	115.2	9.9%
食用油 (キャノーラ油)	101.5	100.9	100.0	106.9	144.4	164.0	163.9	164.3	163.0	164.1	162.1	16.5%
みそ	97.4	99.1	100.0	99.3	101.3	104.5	105.9	106.5	107.1	107.7	107.7	7.9%
マヨネーズ	100.8	100.7	100.0	105.6	125.6	137.3	137.2	139.0	148.6	152.3	153.0	22.3%
チーズ	100.9	101.3	100.0	98.7	107.5	119.2	121.4	121.9	133.9	134.5	134.8	29.6%
バター	99.5	99.9	100.0	99.9	99.2	98.6	98.6	98.9	109.8	111.2	111.4	12.2%
生鮮食品を 除く食料	97.9	99.0	100.0	100.2	104.1	108.7	109.4	110.2	111.6	112.1	112.7	9.2%

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。

【参考】 食品価格動向調査（農林水産省） （令和5年1月～令和5年7月）

	H30	H31 (R元)	R2	R3	R4	R5								
品目	平均	平均	平均	平均	平均	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	R5	
													上昇率 (前月比)	上昇率 (前年 同月比)
食パン	97.9	101.3	100.0	98.6	107.8	111.5	110.7	111.3	111.3	111.3	111.3	116.5	4.7%	10.0%
即席めん	92.4	97.9	100.0	99.2	105.6	111.2	111.2	110.6	110.6	111.8	121.6	122.8	1.0%	11.6%
豆腐	100.1	100.9	100.0	100.6	103.7	108.5	108.1	110.2	113.7	114.1	115.0	114.6	-0.3%	11.4%
食用油 (キャノーラ油)	97.9	103.5	100.0	104.1	140.7	162.2	162.2	161.9	161.2	161.2	160.6	160.0	-0.4%	20.6%
みそ	96.6	100.4	100.0	99.2	100.1	102.3	103.4	103.6	105.2	105.0	105.2	105.0	-0.2%	6.3%
マヨネーズ	97.9	103.1	100.0	102.2	117.7	129.6	128.9	130.3	137.9	142.7	144.4	144.1	-0.2%	21.8%
チーズ	98.6	100.9	100.0	98.1	105.7	116.9	118.4	117.9	129.3	130.3	130.7	130.3	-0.3%	24.1%
バター	99.0	99.5	100.0	99.8	99.1	98.6	98.6	98.4	108.9	110.3	110.7	111.4	0.6%	12.2%

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。

注2: 調査は原則、各都道府県10店舗で実施。平成30年9月までは週1回、同年10月以降は月1回実施。

注3: 調査結果は調査期間中の平均値で算出。

注4: 令和2年4～5月、令和3年1～3月、同5～9月については、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の対象都道府県においては調査を中止。そのためそれぞれ前月の値とは接続しない。

○独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は毎月25日頃に海外の畜産物の需給動向を公表（月報 畜産の情報）

○2023年8月号（7月25日に公表）の各品目の主な動きは以下の通り

『月報 畜産の情報』

◆牛肉

（米国）23年5月の肥育牛価格は依然高水準も、牛肉生産量は前年並み

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002841.html

（豪州）肉牛価格、22年9月の約半値の水準まで下落

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002842.html

（アルゼンチン）23年の肉用牛と畜頭数、干ばつの影響で前年を上回って推移

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002843.html

◆豚肉

（米国）23年1～4月の豚肉輸出量はかなりの程度増加

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002844.html

（カナダ）23年は豚肉生産量、輸出量ともに前年を下回る見込み

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002845.html

（EU）豚肉卸売価格は上昇、輸出量は減少

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002846.html

（中国）豚肉価格は引き続き低迷も、子豚価格は小幅な上昇に転じる

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002847.html

◆牛乳・乳製品

（EU）乳製品価格の下落により、バターと脱脂粉乳の輸出量が増加

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002849.html

（豪州）23/24年度乳価、9豪ドル超えも上昇余地は限定的

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002850.html

（NZ）22/23年度の生乳生産量、前年度よりわずかに減少

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002851.html

◆飼料穀物

（世界：トウモロコシ）ウクライナの増産見込みなどから、期末在庫はやや増加

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002852.html

（世界：大豆）23/24年度は南米の生産増などから、大豆期末在庫は大幅に増加

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002853.html

（米国）22/23年度の輸出量の下方修正などから、23/24年度の期末在庫は増加

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002854.html

（ブラジル）22/23年度第2期作トウモロコシの収穫開始、大豆の収穫はほぼ終了

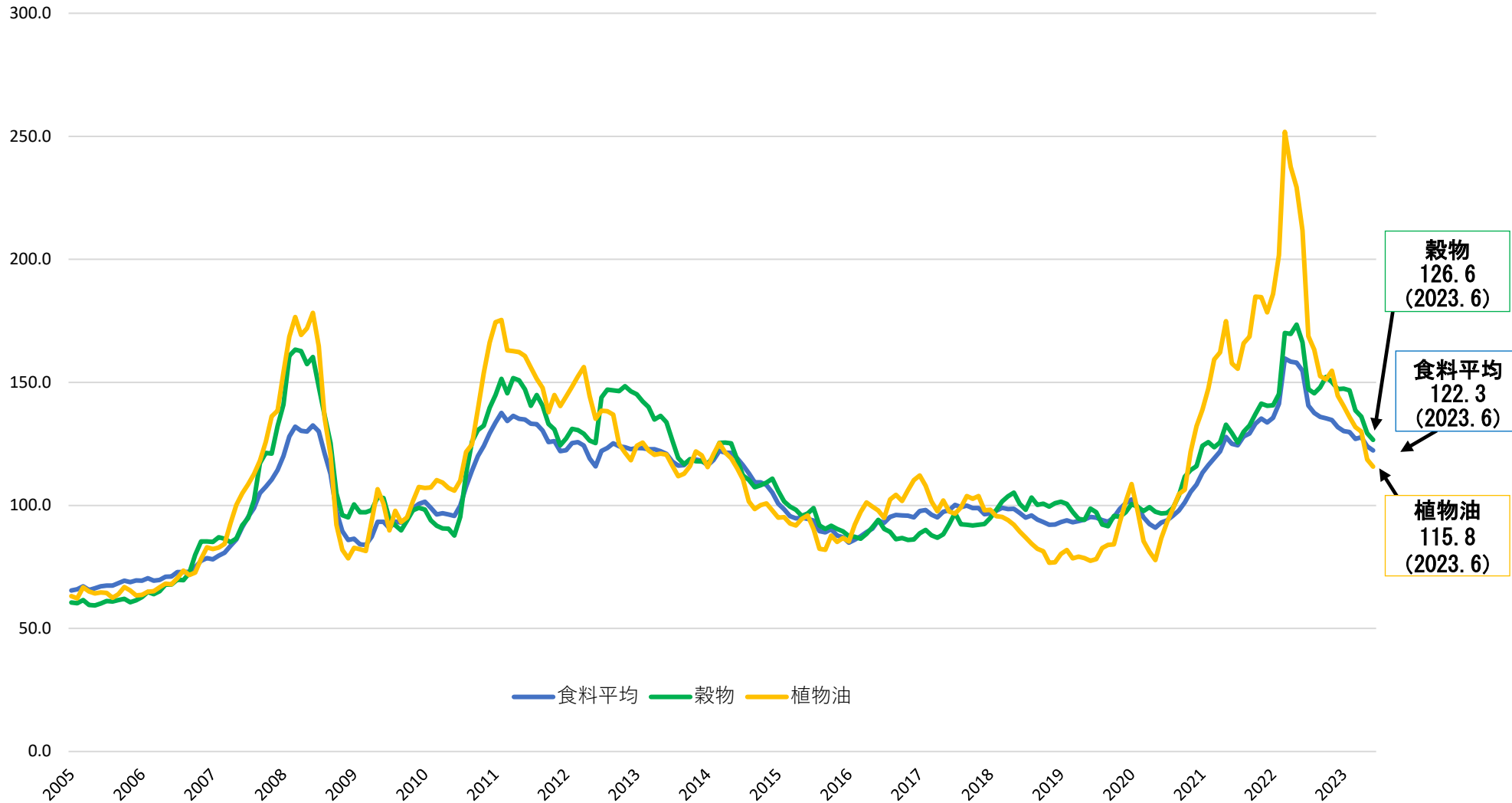
https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002855.html

（中国）トウモロコシおよび大豆の価格動向

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002856.html

資料 7 FAO食料価格指数

(2014-16平均=100)



資料: FAO「Food Price Index」(2023.7)より作成

注: 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等、植物油は大豆油、菜種油、ひまわり油、パーム油等